

SGH 事業報告

平成27年度長野県長野高等学校 SGH 事業の概要

I 課題研究 → I へ

II 海外研修・国際交流

1 台湾研修旅行 … 1

2 米国リーダー研修 … 8

3 訪日台湾高校生徒のワークショップ…14

III グローバルな学びへの参加 → III へ

II 海外研修・国際交流

1 台湾研修旅行

(1) 日程

月・日・曜	行	程
11/30 (月)	<p>A班(4、5、7組 ※7組のみ成田までは8組と移動) あさま806号 京成スカイライナー17号 エバー航空197便</p> <p>長野駅 → 上野 → 成田空港(第1T) → 台北桃園国際空港 → ホテル</p> <p>7:10 8:46 9:20 10:03 14:00 17:05 18:20</p> <p>B班(1、2、3、5組) あさま808号 成田エクスプレス15号 チャイナエアライン101便</p> <p>長野駅 → 東京 → 空海第2ビル → 成田空港(第2T) → 台北桃園国際空港 → ホテル</p> <p>7:22 9:08 10:03 10:54 10:58 14:35 17:45 19:00</p> <p>(注) 1236号は空海第2ビル前で下車、7組は成田空港駅まで。</p>	
12/1 (火)	<p>台湾新幹線</p> <p>ホテル → 桃園駅 → 高雄左側駅 → ホテル</p> <p>7:40頃 9:00 10:36</p> <p>岡山高校での学校交流(7校に分かれて) (現地生徒と夜市等での夕食) → ホテル</p> <p>高雄市高雄女子高級中学校(逢甲中心校)、高雄市立高雄高級中学、国立岡山高級中学、 国立鳳山高級中学、高雄市立瑞祥高級中学、国立高雄師範大学付属高級中学、高雄市立 仁武高級中学:1クラスが1高級中学に赴き、課題研究内容等のプレゼンテーション、 ディスカッションを英語によって行う。</p> <p>20:00~20:30</p>	
12/2 (水)	<p>台湾南部(高雄、高雄、台南)フィールドワーク</p> <p>ホテル → 8:00~8:50</p> <p>A班 高雄大学交流、B班 高雄第一技術大学交流、C班 博物館・逢人埠頭等高雄市内散策、 D班 鳥山頭ダム・高雄市内散策、E、F班 台南市内史跡巡り・鳥山頭ダム、G班 嘉義大学スポーツ交流</p> <p>台湾新幹線</p> <p>左側・台南・嘉義の各駅 → 桃園駅 → ホテル</p> <p>16:00~16:30頃 17:00~18:00頃 17:30~18:30</p>	
12/3 (木)	<p>終日 台北市内および台北近郊フィールドワーク</p> <p>ホテル → 8:00~8:20</p> <p>A班 十分・故宫博物院、B班 故宫博物院・淡水、C班 九份・故宫博物院、 D、E班 故宫博物院・九份、F班 故宫博物院・台北101世貿中心駅</p> <p>18:30</p> <p>ホテル</p>	
12/4 (金)	<p>A班(4、5、7組) エバー航空198便 途中降車あり</p> <p>ホテル → 台北桃園国際空港 → 成田空港(第1T) → 学校ほか</p> <p>6:10 6:40 8:50 12:55 14:30 20:30頃</p> <p>B班(1、2、3、6組) チャイナエアライン100便 途中降車あり</p> <p>ホテル → 台北桃園国際空港 → 成田空港(第2T) → 学校ほか</p> <p>6:50 7:20 9:35 13:30 15:00 21:00頃</p>	

(2) 引率教員 大井基成校長ほか 15名

うち1名は海外交流アドバイザー・恵崎良太郎氏(長野県観光部観光誘客課・国際観光推進室・学習旅行相互交流推進員)

(3) 参加生徒 2年生 280名

(4) 学校交流

① 現地交流校 () は本校のクラス

高雄市立高雄高級中学（2年5組），高雄市立高雄女子高級中学（2年4組），
高雄市立瑞祥高級中学（2年1組），高雄市立仁武高級中学（2年7組），
国立鳳山高級中学（2年2組），国立岡山高級中学（2年3組），
国立高雄師範大学附属高級中学（2年6組）

② 英語プロジェクトIIによる事前学習

英語プロジェクトIIでのプレゼンテーション作成と Google Apps での台湾高校生との共有と交流を進めた。

【課題研究をめぐっての台湾の高校生とのインターネットによる交流例】

パートナーA「(前略) 信濃町は、自然に囲まれた街なのか？ 近代的な都市なのか？
人口減の理由は何か？」

長野高校生「信濃町は、自然に囲まれていて、人々はその環境を楽しみにくる。
人口減については、いくつか理由はあるが、町の職員の話では、仕事が少ない
ことが理由。信濃町人住んでいる人々は、長野市へ働きに出ている。ちょっと
大変である。さらに、若者は、進学のために町から出て行き、仕事がないとい
う理由で戻らない。(または、不便な場所であるがために)」

英語教諭「1 仕事を増やすのが、人口減を止める唯一の方法か？ 2 どうすれば
人々は仕事を作り出すことができるのか？」

長野高校生「1 いいえ、町役場では移住に力を入れています。また学校のシス
テム改革なども行っており、これも有効な試みだと思います。2 町では多く
の人が観光業に従事しています。観光客が増えれば、仕事が増えると思います。
そこで、私たちのグループでは、信濃町を有名で魅力のある町であることを伝
えようと思っています。そして、うまくいけば、訪れた人が信濃町を好きにな
ってくれて、住んでくれるのではないかと思います。また多くの学生たちが、
合宿(トレーニングキャンプ)に訪れます。まだ調べ切れていませんが、これ
も重要な要素だと思います。」

パートナーB「台北などの都市部では、賃料が高いことから郊外に住み、毎日通う
という形態もあります。信濃町は長野に近いそうなので、そういうパターンは
どうでしょうか？」

長野高校生「確かにそうできるといいですが、信濃町は冬場には雪が多すぎて、
道路の除雪をしないと、長野まで車では出られません。除雪は大変な仕事です
し、多くの時間を要します。そういうわけで、人々は、”ベッドタウン”とし
ては、信濃町に住まないのです。」(以下略)

③ 交流内容「プレゼンテーション&ディスカッション」

<Globalization & Glocalization>

- ・初対面者とのコミュニケーション態度の育成/伝えたい気持ちの育成/グループとしてのファシリテーション能力の育成を目的とした場を設定した。長野・高雄それぞれの代表生徒で発表会を進行した。
- ・学校交流で発表するプレゼンテーションは Nagano Project と題して、総合的な学習の時間の課題研究テーマ等のプレゼンテーションを行った。

◆制作した主なプレゼンテーション

○ My favorite presentation (Self プレゼン)

自分の興味のあることをプレゼンテーションの題材に選ぶ。1年次の12月に全員で実施済。リサーチなどで発展させて、グローバル・ローカルな切り口で紹介する。

ねらい

- A. 「自ら興味のあるテーマを深めていく」という「プロジェクト発信型英語」での方法論に従った。身近なテーマにグローバルな視点を発見し、興味関心を広げ、学ぶことに対する意欲を高めていくことを目指した。
- B. また発表内容がバラエティーに富み、発表会場で飽きがこないこと。
- C. 英語力がなくても、ある程度内容を伝えられて、パフォーマンスもしやすい。自分を語れるので、交流生徒も人間関係を作る際にも役立つ。

発表例

Rotary (フランスからの留学生による留学についての話)
Black Jack (手塚治虫の漫画の紹介と医療倫理)
Ramen (日本のラーメンがおいしい理由)
Art Project (自分が行ったプロジェクトの紹介)
Abandoned Pet (ペットと捨て猫)
Fishing (つりの魅力と環境破壊)
Debate (ディベートのルール紹介)
Kendo (剣道を通して学ぶこと)
Hero (様々なヒーロー紹介)

○映画「KANO」印象に残るシーンのプレゼンテーション

2年生は4月に全員で映画「KANO」を鑑賞した。これは日本の植民地統治下の台湾の高校が甲子園で活躍するという話である。台湾では日本より1年早い、2014年2月に公開され、広くそのストーリーは知られている。その映画の印象に残るシーンを紹介するプレゼンテーションを行った。

ねらい

野球、青春という高校生が語りやすいテーマに加え、日本の植民地統治時代を背景にした作品であるため、「海外の生徒と戦争及びその時代を語ることでこれからの平和を考える」という新しい平和教育を目指した。「古い話の価値を話し合うことで、若い世代の間でストーリーを共有する」という方法に基づき、プロジェクトを進めてみた。

○アカデミック・プレゼンテーション《AFP プレゼンテーション》

グローバルな問題をあげ、Debate 的な分析を経て問題提起を行うという型のプレゼンテーション。高齢化社会、交通渋滞、輸入食品、言論の自由、教育問題など16の問題を取り上げた。

ねらい

グローバルな社会問題についての問題意識を共有できる話題にしようとした。今回の交流から大学になっても続く交友関係（アカデミック・パートナーシップ）に発展できるよう、このテーマを選択肢の一つにした。

○ Nagano Project

総合的な学習の時間の課題研究を中心に NAGANO をテーマにした研究発表を行った。

ねらい

海外での発表を通じて、課題研究を深める。特に海外からの視点で長野を見直すことで、「グローバル」と「ローカル」の意識を高めようとした。

発表例

Apple Gibier（鹿肉の可能性） Oyaki Mushroom Soba shrine
Ogawamura Shinano-machi Ueda Olympic Zenkouji
Health and Longevity Miso（それぞれの観光プランやプロジェクト紹介）

今後の課題

「ローカル」なテーマは必ずしも台湾の高校生の関心をひきつけるわけではないという点、このプレゼンテーションの最大の課題である。それをのりこえるためには、「ローカル」な問題の中に台湾にも共通する「グローバル」な問題をどのように見いだせるかにかかっている。いくつかの班は、そうした両者の連関をうまくつなげ、すぐれたプレゼンをうみだすことができた。その際、英語プロジェクトにおいて「アカデミック・プレゼンテーション」を学習していたことは、「ローカル」と「グローバル」の連関を発見するうえで役立ったと思われる。

(KANO)

SCENE③

・In the final, pitcher's nails were cracking. however, he continued to throw.

REASON

・We feel the strongest bond of the team in the movie.

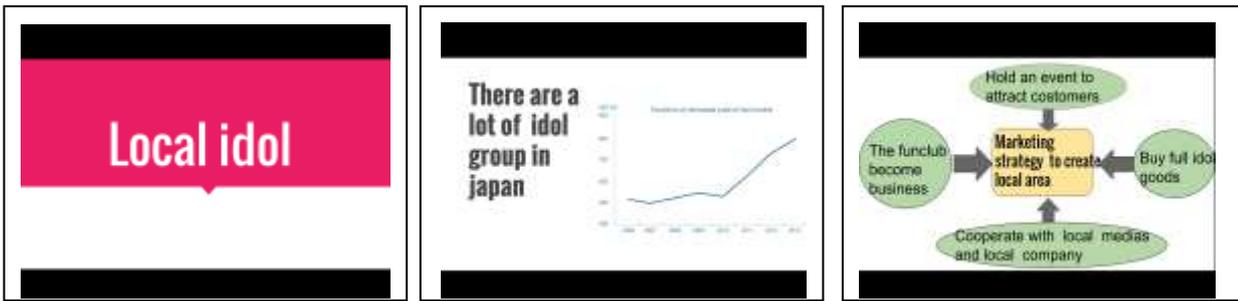
(AFP)

Proposition

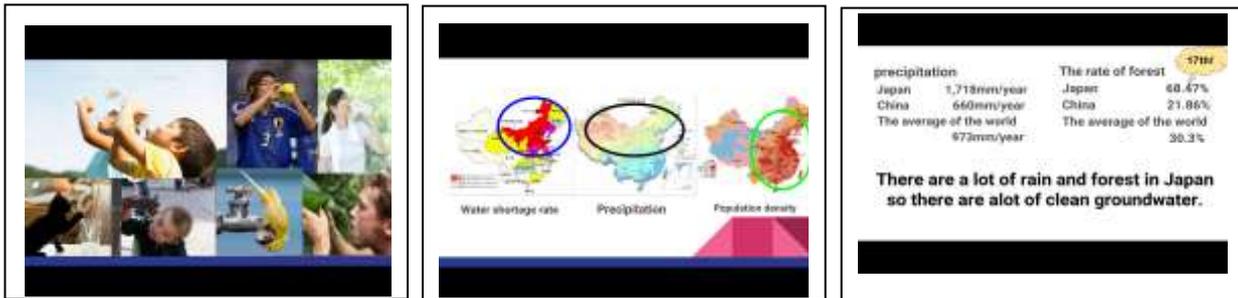
To solve these problems, we should have a discussion about this question.

Should we accept more foreign patients in Japanese hospitals?

(Local Idle)



(Water)



・英語交流の協働学習についての生徒の感想より

- ☆グループで意見を出しあったり、プレゼンテーションのリハーサルでみんなが自由に発表できる空気を作ることができたので、とても居心地の良いグループだったと思う。
- ☆KANOの印象に残った場面をあげるときとか、何か意見を出さないといけない時にほとんど沈黙がなくて、みんな積極的に考えを出し合っていた。
- ☆メールの返信の時に言葉が伝わるかどうかや、メールの読み合いを協働で進めることができた。
- ☆AFPやKANOのプレゼン作成、発表では、主張や根拠をグループ内で話し合い、各自の分担をしっかりとこなすことができた。パソコンの使い方を教え合えた。
- ☆台湾の子からの質問にも、発表者が聞き取れなかった時に、他のメンバーが聞き取れた時は、サポートしたりできた。
- ★グループ内でそれぞれのスライドを見てわかりにくい点や文法の違いなどを指摘するべきだった。
- ★プレゼンの進捗状況などを把握するなど、自分のことだけでなくグループとしてみんながちゃんとできているかを確認するような気配りができればよかった。
- ★スライド作りやグループ内発表では、とにかく時間が足りなかった。だから、テキパキと行動するように、一人一人意識したほうがよかった。

(5) 英語プロジェクト以外の事前学習

① 映画「KANO～1931 海の向こうの甲子園」鑑賞 4月18日(土)

- ・内容：日本統治下の台湾で民族の壁を越えて甲子園の夢を追い準優勝した嘉義農林高校野球部を描いた台湾映画を学年全体で鑑賞。

<担当教員の学年通信での言葉>

「映画を観て台湾について知りたいことは？の問いに、圧倒的に多かったのは、まずは台

湾の歴史や地理を知りたい、という答え。／実際に台湾に行き、その町の空気を吸ってみたい、と答えた人もいます。フィールドワークの見学先として考えて見て下さい。」

② 国立第一科技大学による訪問交流 7月16日(木)

- ・内容：研修旅行で訪問する国立第一科学技術大学の学生たちが長野県を訪問したことにあわせ、2学年と交流した。



③ 台湾の歴史・政治を考える学習会 9月10日(木)

- ・内容：早稲田大学政治経済学部教授・若林正丈氏の講演会
「現代台湾の政治と社会を読み解く」

本校 0B で現代台湾政治分析の第一人者である若林氏が、台湾の歴史・日台関係・台湾政治の課題などについて解説した。

(6) 台湾研修旅行についての生徒のレポートより

SGH の活動の一環として台湾に海外へ研修旅行に行き、海外の学生と交流するというはとても刺激的なことでした。台湾の学生は交流に意欲的な人があつまったということがありますが、とても積極的でした。グローバル社会では日本で求められる能力に加えて、世界で必要とされる能力を身に付けなければいけません。今回の研修旅行でこれからの世界で求められる能力とは何なのかということをし少し学べました。まだ私が触れたことがあるのは日本と台湾という、世界的に見て、ごく一部のローカルです。狭い世界で安心せず、グローバルな感覚を身に付けられるようこれからも学習を積みたいです。

一通りの交流が終了した後、交流相手校だった国立高雄師範大学附属高級中学の高校生に、夜市へ連れて行ってもらった。一緒に夕食を摂るということで、いろいろなものを試そうと思ってさっそく財布を取り出したところ、「今日は全部払ってあげるから気にしないで」というようなことを言われた。感覚的にそれは申し訳ないと思ひ、いわゆる「割り勘」を提案したのだが、「君たちは俺たちの文化を否定するの？台湾ではわざわざ遠くから来てくれた客をもてなすのがごく当たり前だから、郷に入っては郷に従えで頼むよ。君にとっても損ではないだろう？」と若干強めの口調で退けてきた。” Do you try to deny our culture?” というフレーズがとても重く感じられた。古典に「あるじす」という言葉があるが、この言葉のイメージにぴったりである。ここでは詳しく書かないが、会話の端々で民族としての誇りを感じられることもあつた。グローバル化が叫ばれ、世界の均質化が進んでいる中で、自らに特有なものに誇りをもつことができなければ、精神から柔軟性が失われてしまうだろうと感じた。日本人として謙虚さというものも美德ではあるが、自分の文化などは大切に、そのよさを相手に伝え表現できるようになりたい。

私たちは高雄で、同じくらいの年の人達と交流しました。当初は、国が違うのであまりうまく仲良くなる事ができないと思っていましたが、話してみたところ、我々と同じ活発な男の子だと分かり、何のわだかまりもなく普通に接する事ができるようになりました。国と国の間や異なる人種の間で争いが起きたりしていますが、少なくとも未成年の人間はみな同じ人間であり、打ち解けることはとても簡単であるということが分かったので、もし今後外国の人達と交流する機会があったら、進んで自分から話しかけたいと思います。

高雄高級中学校で、私は「中学校時代の美術部」の発表をした。このプレゼンのテーマは、台湾のような「部活」の概念が日本と違う人にとって難しいものだった。しかも、私の取り上げた「美術部」は、日本の美術部の中でも特殊な方で、あまり台湾の人が興味を持ってくれない気がした。そこで新しく3つのスライドを付け足した。

1つ目は「日本の部活と台湾の部活の違い」

2つ目は「美術部でアニメを作った話」→台湾でも日本のアニメが人気だと聞いていた。

3つ目は「台湾の等二芸術特区に行くのを楽しみにしている」

という内容。驚いたことに、当日台湾の高校生からコメントや反応があったのはこの3つのスライドだった。やはり、「自分の国」に他国の人が関心をもってくれるのはうれしいんだ！と改めて思った。日本でも、「クール Japan」や、海外の人が日本のものをほめるシチュエーションを好む。相手国に寄り添い、関心をもつことの大切さに気付くことができた。

私の英語の点数は、本当に悪い。英語の会話も、中学生1~2年生レベルがやっとだ。だが、台湾の高校でプレゼンをしたとき、グループで一番会話ができたのは私かもしれない。まちがいだらけの英語でも、気にせずどんどん相手に話しかけて、台湾の人とおしゃべりを楽しめた。改めて思ったが、英語は本当にただの道具だ。英語の点がよくても、使って会話しなければ意味がない。下手だからと言って、「使うのがはずかしい」と思うのも少し滑稽だ。今でも台湾の高校生の一人と、LINEでおしゃべりを楽しんでいる。



台湾研修旅行はものすごく楽しかったし、普段通り生活していたら学べないことも多く充実したものだ。それでもやっぱり長野に帰ってくるとうれしかった。まず空気がきれい。ごはんがおいしい。お母さんが作ったご飯をこんなにおいしいと感じたのは初めてだった。長野の寒さはちょっといやだけれど、いつも山が見えたり、雪が降って大好きなスノーボードができたりするのは「長野」だからだと思った。台湾に行って初めてわかる日本・長野の良さが予想以上にたくさんあった。私は長野が大好きなのだ、とわかったことも今回の大きな収穫だった。大学生・社会人になって長野を離れることがあっても、長野はずっとずっと大切にしていきたい。

2 米国リーダー研修

(1) 平成26年度米国リーダー研修

① 日程と概要

- ・参加生徒 1年生 40名
- ・引率 海外交流アドバイザー 大宮 透氏（慶應義塾大学 SDM 研究員・小布施ソーシャルデザインセンター研究員）
本校教諭 2名
- ・日程

1日目 3月13日(金)	9:40 金鷄会館前より専用車にて出発 → 16:00 成田空港第一ターミナル着 → 18:20 日本航空JL8便にて米国へ → 18:05 ポストン空港着 → 夕刻 ホテル着
2日目 3月14日(土)	ポストン見学 — ポストン茶会事件博物館、トリニティ教会、プルデンシャルセンター、ポストン美術館 フェンウェイパーク
3日目 3月15日	MIT(マサチューセッツ工科大学)研修 — キャンパス見学、学生による紹介交流・昼食 クインシーマーケット見学(自由行動)
4日目 3月16日(月)	終日:ハーバード大学での交流事業 — キャンパス見学、ハーバード大学生によるレクチャー、グループでの昼食(学生街)、 長野高校生によるSGHでの取り組み紹介のプレゼンテーション、テーマディスカッション
5日目 3月17日(火)	午前:専用車にてニュージャージーへ移動 午後:Milburn High Schoolでの学校交流 ニューヨークへ移動
6日目 3月18日(水)	ニューヨーク見学 — 9.11メモリアル、バッテリーパーク、グランドセントラルステーション(自由行動) ウォールストリート研修、タイムズスクエア(自由行動)
7日目 3月19日(木)	国際連合研修 — 本部見学、ミッドタウンイーストパブリックスペース(自由行動) 国連日本代表部訪問および職員による特別レクチャー・質疑応答
8日目 3月20日(金)	6:00専用車にてJFK空港へ→9:25日本航空JL3便にて日本へ
9日目 3月21日(土)	→ 12:35 成田空港着 入国審査及び税関 → 専用車にて長野へ → 19:30 金鷄会館前に帰着、解散
宿泊地	1～4日目 ポストン ダブルツリーヒルトン・ポストン・ケンブリッジ 5～7日目 ニューヨーク ヒルトンニューアークエアポート

② 研修内容

・ボストン観光

担当生徒が、業者や海外交流アドバイザーと相談して作った企画を実施。旅行行程の最初に観光を実施したのは、旅行中の発表や交流活動を円滑に行うために、段階的に緊張状態を解いていく、いわゆるアイスブレイキングをするためである。観光を通して、お互いがどんな意識で今回の研修プログラムに参加しているのか、そして英語力を含むコミュニケーション能力がどのくらいあるのかについて、共有する場になっていた

・MIT(マサチューセッツ工科大学)研修

現地の学生にキャンパスを案内していただき、Media Lab を見学した。分野を横断した最先端の研究を見学し、そこで学ぶ日本人学生から直接説明を受けた。また、大学生活についても話していただいた。



・ハーバード大学での交流事業

午前中は、ハーバード大学生によるレクチャー（大学生活及び高校生活についてなど）を受け、昼食は少人数グループに分かれてハーバード生との交流を行った。午後には、SGHの取り組みを長野高校生が発表し、その後テーマディスカッションを行った。



・Milburn High School での学校交流

授業と部活に参加し、現地の高校生との交流を深めた。特に授業風景では、生徒が自由に生き生きと学んでいる様子に新鮮な驚きをおぼえた参加者が多かった。紙以外へのアウトプットの多い授業の必要性を感じた機会となった。



・ニューヨーク見学

ボストンと同様に、生徒が企画したものを実施した。コミュニケーションに対する意欲関心が高まり、積極的に関わりを持とうとする状態でのニューヨーク観光は彼らの成果を表す場となった。いわゆるツアーで団体客が添乗員の後をついていくだけの旅行と違い、自ら買い物をしたり、食事の注文をしたりする機会が多く、日毎に自信を持った対応をしていた。

・国際連合での研修

午前中は、ガイドについて案内を受けた。3グループのうち、2グループが日本語でのガイド、1グループが英語でのガイドによる案内となった。英語ガイドにつくグループは希望者としたが13名が希望し、ガイドの説明に対して比較的早いレスポンスで質問を行っていた。また、みんなの前で英語の質問をする自信のないものも、移動中ガイドを捕まえて質問を行っていた。

午後は、国連職員による特別レクチャーであったが、担当者からの説明は10分だけで、その後生徒からの質問に答える形でレクチャーは進んだ。最後まで、質問が終わることはないまま予定時間を大幅にオーバーして終了。研修旅行の最後の場ということも有り、半数以上のものが質問を行い、その多くが複数回質問をしていた。

③生徒のレポートより

今回、私がアメリカ研修に参加して一番強く感じたことは、いわゆる「グローバル人材に求められる力」の重要さです。特に、プレゼン力、コミュニケーション力、リサーチ力、英語力です。また、自分の発信するコンテンツが、いかに人を引き付ける、新しいものであるかも大切であると思いました。アメリカ、そして世界の人々と対等に話し合い、自分の意見を主張していくにはこれらのことが必須であると感じました。

(……)

日本人ハーバード大生による彼らの生き方や考え方についてのプレゼンも印象に残っています。大学に求めるものは教育ではなくリソースだと語った大柴行人さんの話にはなるほどと思いました。プレゼンの技術もさることながら、やはりそのコンテンツの質が違っていたと思います。

Millburn High School での学校交流では、アメリカの学校の様子に衝撃を受けました。私は数学の授業を見学しましたが、そこでは生徒が次から次へと意見を発信したり、隣の人と盛んに議論したりしていて、授業風景が日本の高校のそれとはかけ離れていました。生徒が、自由に生き生きと学んでいる印象を受けました。日本式の授業もよいのですが、このような紙以外へのアウトプットの多い授業も必要だと思います。

その後、ディベート部の生徒と交流しました。彼らのディベートには圧倒され、聞き取れないほどの速さの英語で意見を堂々と読み上げていく様子には怖さすら覚えました。このような人たちと将来話し合うには常に自分の意見を持つことが大切だと思います。

アメリカ研修に参加して、私は、日本の中だけの価値観や雰囲気浸りに浸っていることへ危機感を覚えました。グローバル化ということは、今回会った方々のように、自分の意見をしっかりとってそれをどんどん主張してくる人々と、面と向き合って話し合う場面が出てくるということです。そのような時に、日本的思考で、まわりの人と合わせればいいやという考えでいると、自分に不利な結果になることは確かです。そうならないために、

これから、SGH などを通して「グローバル人材に求められる力」を付けていきたいと思っています。

(2) 米国リーダー研修報告会

①日時：5月23日（土）10：55～11：40 本校小体育館

公開授業にあわせて実施し、保護者・中学生・地域の方々も大勢参観した。

②プログラム

・開会の言葉 SGH スタッフ2年リーダー

・報告

プロローグ 米国リーダー研修概要紹介

Part 1 ハーバード大学での研修

Part 2 MITでの研修

Part 3 ミルバーン高校との交流

Part 4 国連での研修

エピローグ

・閉会の言葉 SGH スタッフ2年サブリーダー



③生徒の感想より

☆楽しそう！多くのことが学べたのだなということが伝わってきた。自分も変わりたいと思ったし、いろんな経験をしてみたい、アメリカに行ってみたいと思った。

☆アメリカに行った人は本当にいろんな経験をすごいと思ったと同時に、少し焦った。今は班活があるけど、大学に行ったらもっといろんな経験をしてみたいと思ったし、今日本にいて自分でどんどん自分から飛び込めることはやってみたいし、将来につなげられる体験をたくさんしたいと思った。

☆アメリカに行った人たちのプレゼンは、とてもうまい人が多くてすごいと思った。聴く側の態度もうまいプレゼンを聞くとどんどんよくなっていった聴かせる力も大事だなと思った。

☆楠さんのように、私も同志を見つけられたら、もっと目標に向かって頑張れるかなと思いました。ディベートとか、自分の意見を伝えられるのは苦手、やりたくないことだけれど、伝えないと自分のことは分かってもらえないし、伝えられるようになることも大切だなと思いました。何か自分を変えるものに出会いたいなと思いました。行人さんのお話の、「どこに行っても自分自身」は、今、自分でも感じていることです。長野高校に入れても、自分自身で努力をしないと勉強したことは見につかない…。もっと積極的に色々なことに挑戦したいです。学生交流での『「不安」でもやってみると、意外とできて、楽しくなる』というようになるように、「思い切ってやってみる」ようにしていきたいと思いました。アメリカはやっぱり自由そうで楽しそうだなと思いました。

(3) 平成 27 年度米国リーダー研修

① 日程と概要

- ・参加生徒 1 年生 40 名
- ・引率 海外交流アドバイザー 大宮 透氏（慶應義塾大学 SDM 研究員・小布施ソーシャルデザインセンター研究員）
本校教諭 1 名

・日程

1日目 3月12日(土)	9:40 学校・長野駅東口より貸し切りバスにて出発 → 16:00成田空港着 → 18:30 日本航空JL8便にて米国へ → 17:15 ボストン空港着 → 夕刻 ホテル着
2日目 3月13日(日)	ボストンダックツアー MIT(マサチューセッツ工科大学)見学・交流 クインシーマーケット見学
3日目 3月14日(月)	終日:ハーバード大学での交流事業 —キャンパス見学、ハーバード大学生によるレクチャー、グループでの昼食(学生街)、 長野高校生によるSGHでの取り組み紹介のプレゼンテーション、テーマディスカッション
4日目 3月15日(火)	午前:専用車にてニュージャージー州へ移動 午後:Millburn High Schoolでの学校交流 ニューヨークへ移動
5日目 3月16日(水)	午前:ニューヨーク見学 —9.11メモリアル、バッテリーパーク、ミッドタウンイースト、グランドセントラルステーション 午後:国際連合研修 —本部見学、国連本部研修、タイムズスクエアの班別研修
6日目 3月17日(木)	6:00 専用車にてJFK空港へ → 9:15 日本航空JL3便にて日本へ
7日目 3月18日(金)	→ 12:25 成田空港着 入国審査および税関 → 貸し切りバスにて長野へ → 19:30 学校帰着、解散
宿泊地	1～3日目 ボストン ハンプトンイン&スイーツ クロスセンター 4～5日目 ニューヨーク ホリデイインマンハッタン フィナンシャルディストリクト

②参加者事前説明会

- ・ 目的：事務的な連絡・説明
- ・ 1回目 11月13日（金）
内容：参加同意書の提出，費用補助の申請，パスポート取得の説明
- ・ 2回目 12月7日（月）
内容：旅行社からの説明，海外交流アドバイザーからの説明
- ・ 3回目 2月15日（月）
内容：旅行社からの説明，添乗員からの説明

③参加者プログラムミーティング

- ・ 目的：現地での活動の打合せや情報共有
- ・ 参加者と海外交流アドバイザー（引率者）との面談
12月7日（3回に分けて12名），12月8日（2回に分けて8名）
12月15日（3回に分けて12名），12月16日（2回に分けて8名）
- ・ 1回目 12月16日（水）
内容：米国リーダー研修の担当割の発表と今後についての打ち合わせ
- ・ 以降，担当別でのミーティング（随時）

④ランチミーティング

- ・ 目的：昼休みを使用して英語での会話練習（毎回別グループ）や英語でのレクチャー
- ・ 1回目 12月14日（月）
内容：英語で自己紹介をする
- ・ 2回目 12月21日（月）
内容：アメリカの歴史・文化について英語で学ぶ（教頭によるレクチャー）
- ・ 3回目 1月25日（月）
内容：英語で研修に対する抱負を述べる
- ・ 4回目 2月1日（月）
内容：英語で研修したいことを述べる
- ・ 5回目 2月8日（月）
内容：学校交流で現地の高校生と何を話したいかを英語で述べる
- ・ 6回目 2月15日（月）
内容：「自分たちはどういう集団なのか」を英語で説明する
- ・ 7回目 2月22日（月）
内容：研修で得たことをどのように還元するかを英語で述べる

⑤生徒の志望動機についてのレポートより

<SGHプログラムにどう取り組んだか，今後どう取り組みたいか>

入学してから約半年間SGHプログラムに取り組んできて，私が一番感じていることは，広い世界に目を向ける時ほど，自分自身を見つめ直さなければならないということです。地域の魅力を発信するフィールドワークでは地域の魅力を知るとともに，自分の住む地域にも

かかわらず、何も知らない情けない自分に出会いました。また英語のディベートや英語のスピーチでは、自分の気持ちをより正確に伝えるにはどんな言葉を選んだらよいかを模索する中で、改めて自分の気持ちと向き合うことができました。

私は広い視野の中で客観的に自分を見付けることで、自分自身が確立され、より芯のある人間になることができるのではないかと考えます。SGHプログラムをとおして自分の目指す姿に近づいていけるように、今後はさらに積極的に自分の意見を発信し、自分の芯となる意見を確立させていきたいです。また他人の意見に耳を傾けることも大切にして、より広い知識を身につけるとともに、常にあらゆる視点から物事を多面的に捉えることのできる人間に成長していきたいと考えています。

<米国リーダー研修に参加して得たいもの>

私は米国リーダー研修に参加して、医師になるという将来の夢に必要な力を身につけたいです。医師は常に人と関わる仕事です。だから人に自分の考えを伝え、同時に相手を理解する相互コミュニケーションの力が大切です。また最近ではインフォームド・コンセントなど「伝える力」が重要視されています。そこで私は研修で課題研究等の英語による発表や現地の教官・研究者や学生との交流で「分かり易さ」を意識してこの力を高めたいです。

私は将来留学し、医師研修に参加することで最先端医療を学びたいと考えています。当然高い語学力が必要です。だから私はこの研修に参加し、ネイティブと交流して現在の力を確認し、英語力を高めたいです。



3 訪日台湾高校生とのワークショップ

(1) 参加生徒 1年生有志 14名が中心

(2) 指導体制 教務係が指導

(3) 事前学習

①第1回研修会 10月22日(木)

・内容：参加者ミーティング

②第2回研修会 10月28日(水)

・内容：ボランティア「梵鐘の会」の代表
小泉隆太郎氏、森 清子氏から善光
寺の案内をしていただいた。

③第3回研修会：11月2日(月)

・内容：「梵鐘の会」代表小泉隆太郎氏の講義「善光寺のガイドをするにあたって」を聞き、質疑応答を深めた。

④第4回研修会：11月27日(金)

・内容：長野県観光部・森山 恵さんによる中国語講座を受講し、互いの氏名を中国語で発音できるようにし、あいさつの基本を学んだ。また、英語による善光寺ガイドの準備を進めた。

⑤第5回研修会：12月11日(金) 直前のガイド準備・練習をおこなった。

(4) ワークショップ本番 12月15日(火)

①台湾国立岡山高級中学からの来訪者：生徒32名、教員5名(校長・校医・訓育組長ほか)

②目的：相手校修学旅行による学校訪問を歓迎し、日台相互の国際交流を深める。1学年生徒は来年度2学年研修旅行交流相手校として、今後のSGH学習を進めるにあたり実質的な交流のきっかけとなるよう善光寺の案内を実施する。2学年生徒は直前の台湾研修旅行で相手校に歓迎していただいた返礼の意も表す。来年度はじめて実施される善光寺サミットで招待者を案内できる生徒の育成をも目指したい。

③内容

・1年生による善光寺ガイド

台湾の生徒を7グループ(4 or 5名ずつ)に分け、本校1年生2名のペアと顔合わせし、グループ別に善光寺を案内した。仲見世、門前町などまで足を延ばし、日本の文化を英語で紹介した。

・ランチ交流

台湾研修旅行で岡山高級中学を訪問した2年3組が企画し、NAGANOの特産品を味わってもらいながら英語での交流を行った。

・歓迎セレモニー

双方の校長、生徒代表の挨拶

放送部が制作した英語版の本校紹介DVDの上映

本校管弦楽班・合唱班による歓迎の演奏

台湾側の返礼パフォーマンス(オカリナ演奏)

・授業交流

2年生の英語・古典の授業に参加してもらい、交流を深める



(5) 善光寺ガイドを行った生徒の感想より

☆いつの間にか打ち解けてきて、だんだんと全員が和気藹々とした雰囲気になってきて良かった。

☆他の班のアイデア（イラストや写真、文字）がたいへん参考になり、新たな方法を考え直すことができて、とても有意義だった。お互いが細かいところを指摘するだけでなく、自分たちのガイドにとりいれることができた。

☆「仏像」「安置」「秘仏」など、仏教用語は言葉が難しくてうまく伝えられない。用意した文章も簡単にしたつもりが、相手の顔に「？」が浮かんでしまい、その場で考え直して話すことが多くなってしまった。「御利益」という概念が伝えられなかった。

☆本堂前で写真を撮った流れで LINE を交換した。台湾の子は日本の漢字をみても大体意味がわかるみたいだが、こちらからは見慣れない文字が多い。私たちの班はみんな English name を教えてくれた。外国の友達と英語で会話できていることに感動した。

